

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。先日バレーボール「ネーションズリーグ2025」が香港で第2週が開幕され世界ランキング5位の日本は同14位タイと対戦致しました。セットカウント3-2で勝利。無敗となりました。2セットビハインドも立て直しに成功。

フェルト・アクバッシュ監督は「序盤苦戦したがこうして逆転できた事は嬉しく思う。私たちは自信を持っていた。」とチームもマインドを振り返りつつ「素晴らしい逆転劇だと思ったし、もしかしたらこうして逆転できたことが良いことなのかもしれない」と前を向いたのです。新エースとして存在感を示す佐藤淑乃氏も21得点を奪った。若い有望な選手が出て来た事に今後の活躍が期待されます。例年にない暑い日が続いておりますが皆様もお体に気をつけてください。

サンライズの物語

「今も、教えてくれている」

— 生きるとは何かを遺してくれた人へ —

その方は、お母様の介護をされ見送り、その後ご自身も介護保険認定を受けた方でした。私はお母様の時から担当ケアマネとして関わらせて頂いていたのです。毎月お会いする度にお母様の思い出話や孫の話に時間が経つのを忘れていました。

そんな時、大腸がんに罹患され手術を施術されましたが全身に癌が転移し腹膜播種と診断されたのでした。今年の4月頃までは元気に過ごされており「私は死なないわよ。癌には負けない。」と言い続けガッツポーズをしていたのですが・・・

5月中旬から体の痛みの訴えがありベッドに横になることが増えていました。そんな状態でもトイレだけは行っていたのです。そして6月始めトイレで倒れているのを介助者が発見し緊急搬送されてしまい検査結果は肝臓への転移が酷く内臓が機能していないとの診断でした。

入院一週間後お母様のところへと旅立ったのです。病理医である榎本英介氏曰く、亡くなった人はいまも生きている私たちに充実した人生を歩むための方法を教えてくれる先生なのだと言います。これからも「私は死なないわよ。」と言った笑顔を忘れることはないと思うのです。





7月カレンダー工作

折り紙でお花を作り画用紙に貼り付けて作りました。



NEWS 今月のニュース

認知症の高齢者がホールスタッフとして働く飲食店 | 歴17年の介護福祉士が営む「ちばる食堂」に注目

愛知県岡崎市にある「ちばる食堂」は、認知症の高齢者がホールスタッフを務める飲食店です。認知症の人が日常的に働くお店は全国的にも珍しく、国内のみならず、海外からも注目を集めています。

当店は認知症の高齢者を一般雇用する沖縄料理店です。2019年4月に開店しました。店舗の運営体制は、料理担当の私と、ホール担当の認知症の女性3人・ダウン症の男性1人の計5人で、認知症のスタッフは主に70～80代が中心です。それぞれのスタッフができることを活かしながら働けるよう配慮しつつ、給与面も

含め一般的な飲食店と同様の運営を心がけています。なお、店名の「ちばる」とは、沖縄の方言で頑張るという意味です。

「認知症の方も頑張れる場所にしたい」との思いを込めて名付けました。

開店当初は、全員が働きやすいように様々な方法を試していました。認知症のためミスをしてしまうことも多々ありますが、だからといって特別な方法を取り入れるのではなく、それぞれのスタッフの特性を理解したうえで、それに合わせた対応をすることが重要だと考えています。

当店でどのスタッフも、自分の役割を理解しながら一生懸命仕事をしてくれています。一般的には「認知症＝何もできない」という考えが強い傾向にあ

りますが、認知症を発症していても、できることはたくさんあります。「認知症の人と働いているなんて大変だね」ではなく、「いつも混んでいて、忙しくて大変だね!」と言ってもらえるように、お店を続けることで認知症への偏見をなくしていきたいと考えています。

やはり、皆さん、できる限り在宅での生活を続けて欲しいと考えているのではないのでしょうか。今後も働くことが、それぞれのスタッフにとって良い刺激になればと考えています。

<介護のみらいラボ

2025/6/24 (火) >

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>